

林京香さんとの「出会い」と障害者差別解消法

ここに1枚の切り抜きがある。新聞切り抜きは、退職後の今も毎日続けている。写真は朝日新聞2013年11月13日夕刊だ。障害者の「あたり前」支える、という見出しで、

「はるよ こい」を手にした川本道代さんが大きく写っている。この「はるよ こい」に寄稿できるとは、なんだか「縁」を感じる。2016年に寄稿した拙稿を紹介したい。

林京香さん、京ちゃんとの出会いは、記事で案内されている集会だった。名古屋市立大学病院ホールで行われる「障害者差別解消法と『教育』」という集会である。この集会の案内を学生にしたい、という依頼が卒業生を通じてあった。すこし迷ったが、私が「仲介役」となり、大学の講義時間に京ちゃんご家族に話してもらった。この時、初めて緊張気味に京ちゃんに会った。



じつは京ちゃんのごことは、その年の7月18日の中日新聞で知っていた。「思いやりなき本音」と題し、インターネットの掲示板に京ちゃんらへの罵詈雑言といった記事だ。とにかく腹が立った。体育の授業で、ドッジボールの外野をつとめた京ちゃん。同級生たちはボールが当たりそうになると前に立って守り、京ちゃんが厚紙に傾斜を付けてボールを転がす姿を「かっこいい」とほめてくれた、などと書かれていた。記事をコピーして、学生たちと何度か議論した。京ちゃんの学校生活にも関心をもった。

京ちゃんは大学祭にも来てくれた。学生たちが誘導してくれたようだ。うれしかったのは、私の「最終講義」に来てもらったことだ。2014年2月22日、土曜日午後、満員の教室最前列で熱心に講義を聴いてくれた京ちゃん。講義が終わって、手づくりの色紙をプレゼントしてもらった。参加した多くの学生・教職員、市民の皆さんも感動していたようだった。もちろん、私は目頭を熱くしていた。



京ちゃんのご家族とは、ここ1年余り、直接会って話す機会、インターネットでのやりとりが多くなった。いつも京ちゃんのことが頭から離れない。雪の降る朝など、ちゃんと学校に行けたかな。学校では級友たちと雪遊びをしているのかな、などと。やはり京ちゃんの学校生活が気になり、5月の運動会を見学に行った。京ちゃんは「赤組応援団長」として大活躍した。クラスで京ちゃんの「居場所」があり、級友たちとの「つながり」をまじかに見ることもできた。10月の「授業参観」

にも行った。ノコギリを使う工作の授業であった。教師の京ちゃんへの「対応」など、考えさせられることもあった。

なんといっても、11月の「学芸会」がおもしろかった。京ちゃんは「キャッツ」の「長老猫」役を演じた。確か2年生の役は「クラゲ」だったと思う。「クラスの皆を見守る存在」として抜擢されたようだ。私はこの時、眼を患っており、舞台があまり見えなかったが、京ちゃんの活躍ぶりを心に刻んだ。38度の高熱の京ちゃん。「絶対に休まない」と頑張った京ちゃん。がんばり屋の京ちゃんに拍手を送った。

4月からは5年の高学年になる。学校生活での課題も多くなるようだが、きっと乗り越えられると思う。それより気になったのが、先に「はるよ こい」に連載された地域のつながりと啓発である。私のレポートにも、「悲しい出来事」から話は始まると紹介した。連載は「辛い出来事ではあったが、地域のつながりを考えてくださる方と出会えてプラスだったと、発想を転換している。こうした体験も、地域で生きているからこそこの出来事なのかもしれない」と結んでいる。今の社会状況を反映して、やっかいなことも多いと思うが、今回の体験を踏まえて、地域とのつながりを深めてもらいたい。

この4月から「障害者差別解消法」が施行される。どれだけの人がこの法律を知っているだろうか。そういう私も恥ずかしながら、京ちゃんと出会っていなければ、法律の施行など気に留めなかつただろう。

東京新聞は1月9日1面に「障害者新法 生かせぬ恐れ」と大きく報じた。この記事を読んだ。記事は言う。法成立から2年半たつのに、省庁の中には法律で義務づけられた指針を民間事業者に通知していないなど、政府の対応は遅れている。このまま事業者への周知が進まなければ、法律が現場で適用されず、障害者の要望が実現しない事態になりかねない。

最近久しぶりに、四日市公害など「人権の護民官」と言われた田尻宗昭さんの『君は、闘っているか』を読んだ。田尻さんは法律の「本当の活字が生きたものとなるためには、現場で人間が必死になって闘わなければ、それは実のあるものにならない」と述べる。障害者差別解消法も、こうした努力が求められるのであろうか。障害者差別にも「君は、闘っているか」と。

偶然に京ちゃんと知り合って、障害をもつ人に関心をもつようになった。京ちゃんから学んだことは多い。たいした力にはならないが、障害をもつ人との「交流」を深めていきたい。障害者差別が文字通り解消する日、社会の「壁」消える日が「はやくこい」と叫びたい。

(2021年5月9日)